

第3学年国語科学習指導案

指導者 山本 理恵

1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)

2 学年・組 第3学年A組(34名)

3 単元名 場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう
「ちいちゃんのかげおくり」

4 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能] (1) オ
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) エ
文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

5 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を作って、考えたことを伝え合おう】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1) オ	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C (1) エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C (1) オ)	① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったことや考えたことを伝え合おうとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、4月教材「きつつきの商売」では、叙述を基に登場人物の行動や気持ちを捉え、物語の先を想像する学習を行った。6月教材「まいごのかぎ」では、場面を比べながら読むことによって、物語の最初と最後の場面で登場人物の気持ちの変化していることを捉える学習を行った。これらの文学的な文章の学習を通して、登場人物の様子や行動に着目して読み、気持ちの変化を想像することができるようになってきた。ほとんどの児童が叙述から根拠を見つけて登場人物の気持ちを想像していた。しかし、登場人物の気持ちが変化していることは理解できても、「なぜ変わったか」ということを場面の移り変わりと結び付けて具体的に考えることができる児童は少なかった。

授業では、登場人物の気持ちを想像して自分の考えをもつことができる児童が増えてきている。国語科学習アンケートでは、「国語科の学習で、自分の感想や考えをもつことができますか。」という質問について、79%の児童が肯定的な回答をしている。肯定的な回答をしていない21%の児童も考え始める前に数人に考えを発表させて例を示したり、個別に言葉掛けをしたりすること

で自分の考えに自信をもつことができるようになってきている。しかし、学習してきたことを踏まえて考えたり、考えた理由を明確にしたりすることができる児童は少ない。少人数の中で互いの考えを交流することについては、ほとんどの児童が意欲的に取り組み、自分の考えと比較したり、新たな考えに関心をもつことができたりする姿が見られる。

語彙については、意味が分からない語句があれば、その都度、国語辞典を使用して調べようとする児童が増えてきた。「まいごのかぎ」では、様子や行動、気持ちを表す語句を捉えて学習することで、叙述を基に、登場人物の気持ちを想像することができるようになった。教科書巻末の「言葉のたから箱」を継続的に活用している。「言葉のたから箱」の中から、予想される気持ちを表す言葉を取り出した表を常掲したり、気持ちを表す言葉を使った短文作りに取り組んだりした。そうすることで、自分の考えに合う言葉を見つけて表現する児童が見られるようになってきた。

(2) 教材観

本単元は、主な指導事項として、「C読むこと」(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」を設定している。これは、第5学年及び第6学年では、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」に発展していく内容となっている。

本教材は、五つの場面で構成されており、時間の経過に従って主人公をめぐる出来事がはっきりして場面の移り変わりを捉えやすい。語り手が「ちいちゃん」に寄り添って物語を進める形で描かれており、児童はちいちゃんに感情移入しながら読み進めることができる。また、行動や様子を表す言葉について、多様な表現が用いられており、児童が登場人物の気持ちの変化や性格、情景を想像するための手掛かりとなる。これらのことから、登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像していくことを指導するのに適した教材であると考ええる。

そして、本教材は、児童にとって、教科書で読む初めての戦争を題材とした文学作品である。物語を読むことを通して、戦争の悲惨さを感じたり、平和の大切さを考えたりすることができるようにしていきたい。

(3) 指導観

本教材は、第二次世界大戦下の物語である。本校の児童は、本川小学校平和資料館の見学や校庭にある被爆樹木から、戦争の実相を学んできているが、その当時の人々の気持ちや感情まで理解することは難しい。そのため、事前に戦争に関する文学作品を読んだり、総合的な学習の時間と関連させて、戦時中の出来事や人々の生活の様子を学習したりする機会を設ける。

言語活動として、物語を読み、考えたことを伝え合う活動を設定する。自分の考えを可視化して心情曲線「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を作ることで、必然的に気持ちに着目して読んでいくことができる。屏風折りのようにまとめていくことで、書き溜めた心情曲線を視覚的につなげて見ていくことができるようにする。そうすることで、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。また、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるために、心情曲線と本文を同時に見ることができるよう学習プリントを工夫する。さらに、単元の終わりに向けて、自分が考えた心情曲線が出来上がるようにすることで、次の場面を詳しく読んでいきたいという児童の意欲を引き出すこともでき、既習場面に戻って自分の考えを深めていくこともできると考える。

二次では、登場人物の様子や行動を表す言葉に着目し、ちいちゃんの気持ちの変化を想像できるようにする。授業では、叙述に着目させるだけでなく挿絵を提示することで、場面の様子を想像しやすいようにする。物語終盤では、ちいちゃんから離れて、客観的に物語を読むことで、三次の活動につなげたい。絵本「ちいちゃんのかげおくり」(あまんきみこ作、上野紀子絵、あかね書房、1982年)の挿絵を用いて、児童の読みの視点を「ちいちゃん」から「読み手」に変えることで、自分の考えを深めていくとともに、戦争の悲惨さや、作者が作品に込めた平和への思いを考えられるようにする。また、これまでの単元と同様に教科書巻末にある「言葉のたから箱」の中から予想される気持ちを表す言葉を取り出した表を掲示していつでも見るようにする。

単元を通して、自分の考えを班や全体で伝え合う活動を取り入れる。班で伝え合うことを通して、想像した気持ちを児童から引き出し、自分の考えを明確にしていく時間にしていきたい。班の中では、根拠となる叙述や理由を交流していく。二次や三次では、学習支援システム「ミライシード」の「ムーブノート」や「オクリンク」を活用してお互いの考えを共有することで、活動に集中し、伝達だけにとどまらないようにしていきたい。また、画面上において一目で友達の考えと自分の考えを比べることができるため、伝え合うことへの意欲を引き出すことができると考える。自分の考えと比べながら聞くことで、相手の考えのよさや新たな考えを知ることができるようにする。伝え合いの後で、一人一人が「ちいちゃんの気持ちバロメーター」に心情曲線をかき、気持ちが変化したところに、その時のちいちゃんの気持ちや理由を書き込んでいくようにする。こうした活動を通して、自分の考えに自信をもち、学級全体でちいちゃんの気持ちの変化を交流していくことができるようにしていく。友達の考えを聞いて、考えが揺れ動いたり、確信をもつことができたりする姿を大切にしていきたい。柔軟に想像を膨らませていくようにしたい。

8 単元の指導計画（10時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○戦争に関する物語を読み、当時の様子や人々の思いに関心をもつ。 ○戦時中の出来事や人々の生活の様子を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争に関する物語コーナーを設置し、児童がいつでも読めるようにする。 ・教材文にある戦争に関する語句を取り上げる。 	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもつ。 ○全文を読み、初発の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が感想を書く前に、物語のあらすじを確認する。 ・疑問、感じたこと、みんなで考えたいことを書くように指導する。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○初発の感想を交流し、学習課題を設定する。 ○単元を通して、「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を基に伝え合いをすることを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の疑問やみんなで考えたいことを生かしていくことで、児童が主体的に学習を進められるようにする。 	
二	3 ～ 5	○かげおくりをしたときのちいちゃんの気持ち、ひとりぼっちになったときの気持ちの変化や情景を想像して、伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを屏風折りの本にすることで、場面の移り変わりや結び付けて考えることができるようにする。 	◎様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。【知①】【発言・記述】
	6	○第一場面と第四場面のかげおくりを比較し、幻のかげおくりをするちいちゃんの思いを考えて、伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子や行動を表す言葉に着目し、叙述に基づいて考えられるように指導する。 	

	7 本時	○家族に会えたときのちいちゃんの気持ちを想像し、読み手の立場から感じたことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を基に振り返りながら、伝え合い、主体的に取り組むことができるようにする。 ・考えを交流する場面では、より多くの考えを共有することができるように、学習支援システム「ミライシード」の「ムーブノート」を活用する。 ・ちいちゃんが一人で亡くなった場面の挿絵を提示し、読み手の立場から考えることができるようにする。 	<p>◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思①〕 【発言・記述】</p> <p>◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習の見通しをもって、心に残ったことや考えたことを伝え合おうとしている。〔主①〕【観察・発言・記述】</p>
	8	○第五場面について、戦争中と現在を比べ、作者が伝えたかったことを伝え合う。		
三	9	○物語を読んで感じたことを理由とともにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を振り返り、学習したことを想起できるようにする。 ・努力を要する児童には、付箋紙に思い付いた短い言葉を書き溜めて並び替えることで、自分の考えを整理できるようにする。 	<p>◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔思②〕【記述】</p>
	10	<p>○自分の感想と比べながら、友達の感想を読み、似ているところや違うところを伝え合う。</p> <p>○単元の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感想と比べながら、友達の感想を読むように指導する。 ・考えを交流する場面では、より多くの考えを共有することができるように、学習支援システム「ミライシード」の「オクリンク」を活用する。 	

9 単元のゴールの姿

- ぼくは、この物語を読んで、むねがはりさけそうな気持ちになりました。その理由は、ちいちゃんはお母さんとお兄ちゃんとはぐれてすごく不安になっただろうに、ぐっと泣くのをこらえて、「きっと家族に会える」という気持ちをずっともちつづけていたからです。ちいちゃんはまだこんなに小さいのに、長い間一人ぼっちでこわかったり、食べるものもほとんどなくおなかがすいていたりして、つらいことばかりが続きしました。ちいちゃんは何も悪くないのに、こんなにひどいことばかりがあつて、本当にしんどかったと思いました。もしかしたら、戦争の時には、この本川小学校の近くにもちいちゃんと同じような思いをした子どもたちがたくさんいたのかもしれないと思いました。
- わたしは、この物語は悲しくてつらくてたまらない物語だと思いました。その理由は、ちいちゃんは死んだ後に家族に会えてうれしそうにしているけど、死んでから会うことになったところが悲しいと思ったからです。ひとりぼっちになったちいちゃんが、ずっと家族に会いたいと強くねがっていたのに、家族だけではなく、さい後にはちいちゃんの命までうばわれてしまって、せんそうは本当にざんこくだと思いました。
- この物語はちいちゃんが幸せとも不幸せとも言えないと思いました。なぜなら、ちいちゃんはずっと家族をさがしていて、やっと会えたから幸せなように思うけど、みんな死んでしまっているし、家も何もかもなくなってしまうから不幸だと思えるからです。家族にずっと会えなくても、ちいちゃんは、さい後まで「会いたい」という気持ちと「きっと、会える」という気持ちをもちつづけていて、何とかしてあげたい気持ちになりました。

10 本時の学習（第二次7時）



(1) 目標

家族に再会したときのちいちゃんの気持ちを、これまでの場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。〔思①〕

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時のめあてを確かめる。</p>	<p>・これまでに学習したことを「ちいちゃんの気持ちバロメーター」で確認する。</p>	
<p>めあて 家族にさい会したちいちゃんの気持ちを想ぞうして伝え合おう。</p>		
<p>3 4場面の範読を聞く。</p> <p>4 ちいちゃんの気持ちについて伝え合う。 ① 班で ② 全体で</p> <p>5 「ちいちゃんの気持ちバロメーター」に心情曲線をかく。</p> <p>6 全体で交流する。 ちいちゃんは、うれしい気持ちになりました。理由は、家族にやっと会えたからです。</p> <p>7 読み手の立場から、感じたことを交流する。</p> <p>8 振り返りを書く。</p>	<p>・ちいちゃんの気持ちが分かる記述を見付けながら聞くようにする。</p> <p>・班で考えを伝え合う時には、それぞれの考えが視覚的に分かるように学習支援システム「ミライシード」の「ムーブノート」を活用する。</p> <p>・線が引いてある叙述を基にちいちゃんの気持ちとその理由を考えることができるようにする。</p> <p>・気持ちの変化が分かる曲線のところに、気持ちや理由を書き込むように指示しておく。</p> <p>※努力を要する児童には、「気持ちを表す言葉」の一覧から選んだり、挿絵を活用したり、「ちいちゃんの気持ちバロメーター」を振り返ったりすることで、考えをもつことができるようにする。</p> <p>・ちいちゃんが一人で亡くなった場面の挿絵を提示し、読み手の立場から考えることができるようにする。</p> <p>・学習したことについての感想や友達の見解を聞いて考えたことを書くようにする。</p>	<p>◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて想像している。〔思①〕【発言・記述】</p>

1 1 板書計画

<p>ふりかえり</p>	<p>挿絵</p>	<p>ちいちゃんは、うれしい気持ちになりました。理由は、家族にやつと会えたからです。</p>		<p>ちいちゃんのかげおくり</p> <p>あまん きみこ</p> <p>◎家族にさい会したちいちゃんの気持ちを想ぞうして伝え合おう。</p> <p>めあて</p>
	<p>児童の発言を書き込んでいく</p>			
			<p>本文</p>	

ちいちゃんの気持ちバロメーター

<p>挿絵</p>	
	
<p>◎学習をふりかえって、思ったことや友達の意見を聞いて考えたことを書こう。</p>	<p>本文</p>

第3学年 国語科と平和教育のつながり

国語科
(文学的な文章)

登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう
「まいごのかぎ」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・一次で文章を読んで感じた「謎」や「疑問」、「もっと知りたいこと」を考え共有することで、同じ文章を読んでも一人一人の感じ方などに違いがあることに気付く。
- ・「謎」を解決するための手掛かりを叙述や場面の移り変わり結び付けて考え、文章を読んで理解したことを基に自分の考えをもち、相手に伝える。
- ・物語の感想を伝え合い、互いの感じたことや考えたことを理解し、他者の感じ方のよさに気付く。

場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう
「ちいちゃんのかげおくり」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・登場人物の気持ちの変化について、気持ちバロメーターに「ちいちゃん」の気持ちの変化を表して考え、互いに考えを伝え合う。
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを、叙述に基づいて共有し、文章のどこに着目するのか、どのような経験と結び付けて読むのかによって一人一人の感じ方に違いがあることに気付く。

登場人物について、話し合おう
「モチモチの木」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・登場人物「豆太」について考えたことを互いに伝え合うことで、人物に対する見方や考え方を深め、自分の体験などと結び付けて自分の考えをもち、伝え合う。
- ・登場人物が成長していくことと自分の体験とを結び付けて考え、友達と感想を伝え合うことで、一人一人の感じ方の違いに気付き、他者の感じ方のよさに気付く。

本川小学校の被爆の実相を知ろう

他教科等

「とうろう作り」(図画工作科)

- ・平和の願いをこめてとうろうを作ることによって、平和について自分にできることを考え、その思いをとうろうに書く。

「せんそうがあったころの広島(平和ノート)」(社会科)

- ・戦争中と現在の生活の様子を比較し、子供たちの暮らしの様子の違いを理解し、今の自分たちの暮らしについて、感じたことを伝え合う。

「せんそうがあったころの広島(平和ノート)」(国語科)

- ・理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考え、相手に伝わるように工夫し、戦争があったころの広島について考えをもち、自分の考えを相手に伝える。

「本川小学校平和資料館について調べよう」(総合的な学習の時間)

- ・本川小学校平和資料館を見学し、本川小学校の歴史や被爆の実相、戦後のあゆみを調べる。見学して感じたことを伝え合い、戦争の悲惨さや残酷さ、自分たちと同じ小学生の暮らしについて考えをもつ。

「せんそうがあったころの広島(平和ノート)」(道徳科)

- ・原子爆弾によって突如、家族を奪われた「ちづ子さん」の気持ちを考えることを通して、生命の尊さを知り、生命あるものを大切にしようとする自分の考えを伝える。

「戦争と本川小学校」(総合的な学習の時間)

- ・本川小学校平和資料館について学習したことを基にして、原爆の恐ろしさや戦争の残酷さについて考え、自分の考えをまとめ、伝え合う。